

群峰

7

追悼 金子幸代先生

二〇二二年四月
富山文学の会

編集後記

▼昨年（二〇二一年）の五月十三日に富山文学の会の創設者である金子幸代先生がご逝去されました。富山文学の研究発展のため、当会を設立し、設立後も私たちを導いてくださったことには感謝しかありません。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。富山文学の研究を深め続けることが先生のご遺志を継ぐことだと、当会一同決意を新たにしています。

▼今号では、先生への追悼五編、意欲あふれる研究論文四編が集まりました。かつて先生の教えを受けた方々のご寄稿を読むと、先生の笑顔が目に浮かび、声がじかに聞こえてくるようでした。先生はとも学生思いで、学生に今必要なことはもちろん、将来のことも考えて指導してくださったのだと、改めて感じました。研究論文も富山の作家や女性作家を対象としたものが多く、先生も天国でうんうんとうなずきながら読んでくださっているのではないかと思っています。

▼新型コロナウイルス感染症の収束は見えつつある

ように感じる一方、国際情勢は不安定な状況になっていきます。文学部・人文学部とは人間を研究する学部だという趣旨のことを学生時代に聞いたことがあります。他の学問と違い、成果が見えにくい文学研究ですが、人間を研究する学問として、なくてはならないものだと考えています。先生の言葉を借りるなら、本物を見る目、そして批判精神を養って未来を切り拓くためにも、まずは身近な富山文学の研究を深めていきたいと思います。

今村記

群峰 第7号

二〇二二年四月一日 発行

編集・発行 富山文学の会

連絡先 富山県射水市海老江練合1番2

富山高等専門学校（射水キャンパス）

近藤教員室